地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

（平成３０年度対象）

栄町教育委員会

令和元年１１月

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項の規定により，教育委員会は，毎年，その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。また，第２項では点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとするとされています。

栄町教育委員会では法の趣旨に則し，課題や方向性を明らかにし，より効果的な教育行政の推進のため，学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ，町議会に提出するとともに，それを公表し説明責任を果たすものです。

〇地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条 教育委員会は，毎年，その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，これを議会に提出するとともに，公表しなければならない。

２ 教育委員会は，前項の点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職　　名	氏　　名
教　育　長	藤　ケ　崎　功
教育長職務代理者	中　島　宣　行
委　員	大　久　保　雅　從
委　員	弘　海　千　鶴
委　員	石　川　京　子

目　　次

１　点検・評価の対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
２　点検・評価の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
３　点検・評価の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
４　点検・評価（施策評価シート）
平成３０年度栄町教育方針
基本方針（１）
創意と活力のある教育活動の中で，基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成，並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ，個性を活かすきめ細かな学校教育を推進します。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２～Ｐ１１

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１２～Ｐ１５
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについてＰ１６～Ｐ１８

基本方針（２）
生涯学習とスポーツを通して，心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくるとともに，地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。・・・・・・・・・・・・・Ｐ１９～Ｐ２２

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２３～Ｐ２４
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・・Ｐ２５

基本方針（３）
地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り，個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。・・Ｐ２６～Ｐ２９

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３０～Ｐ３１
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・・Ｐ３２

５　本町教育行政が取組む方向について・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３３

１ 点検・評価の対象

点検・評価の対象は，「栄町教育方針」を実現するため，平成３０年度の重点的な取組みとして実施した，「教育行政の充実」「学校教育環境の整備」「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学習環境の充実」「学校給食の充実」「生涯学習環境の充実」「生涯学習資料の充実」「スポーツ振興事業の充実」「文化芸術発信拠点の充実」「歴史資料の公開・活用」「文化財保護の拡充」の１２の施策について点検・評価しました。

２ 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては，教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。

評価は，施策全体の取り組み状況（達成度）について

- 目　標　を　達　成　★★★
- 目 標 を ほ ぼ 達 成　★★
- 目標に達成していない　★
- 現時点で判定できない　—

の４段階で実績・成果・課題を記述し，評価する方法で行いました。

なお，客観性を一層高めるため，教育に関し学識経験を有する方に取組み状況を説明し，基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は，次のとおりです。

（敬称略）

氏　名　　中澤　一夫　（団体役員）

氏　名　　内田　圭子　（元学校長）

３ 点検・評価の結果

施策評価シートにより，点検評価を実施しています。

１２施策の結果は次のとおり

≪目標に対する達成状況≫

目　標　を　達　成　★★★・・・８施策
目 標 を ほ ぼ 達 成　★★・・・・４施策
目標に達成していない　★・・・・・なし
現時点で判定できない　—・・・・・なし

４　点検・評価（施策評価シート）

基本方針　（１）
創意と活力のある教育活動の中で，基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成，並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ，個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。

【施　策　名】

・教育行政の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
・学校教育環境の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
・特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５～Ｐ６
・きめ細かな学校教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７～Ｐ８
・学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ９～Ｐ１０
・学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１１

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１２～Ｐ１５
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・Ｐ１６～Ｐ１８

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	教育行政の充実
現状と課題	教育行政の大綱や教育の条件整備などに関して町長と教育委員会が協議・調整を行う「総合教育会議」が設置されており、町長が招集し、大綱の策定、教育条件の整備等重点に講ずべき施策、緊急の講ずべき措置について町長と教育委員会が協議・調整を行うこととしている。町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」を育むことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進した。 また、教育委員会内の情報の共有化、意識の共有化等風通しの良さをより一層徹底して、教育環境の改善につなげていく。
施策の情報整理 目指す成果	教育に関する国等の情報が的確に収集され、迅速に教育委員会に諮り、委員会の意思決定を行うとともに、関係課及び各教育機関が連携し円滑な教育行政が行われている。また、栄町教育振興基本計画にもあるように、家庭・学校・地域を連携し、それぞれの役割を担いながら、学校教育、生涯学習、スポーツ、芸術文化などの各分野に積極的に参画することで、「豊かな心と生きがいを育み歴史と文化が息づくまち」をつくり「夢に向かって挑戦する栄っこ」を育むことができる社会の実現を目指した。

成果指標及び実績	指標	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
	教育委員会所管の施策目標の達成度	42%	100%	100%	100%	教育委員会所管の施策について点検評価を実施した際の達成度（施策全体の目標をほぼ達成した割合）
			100%	100%		

施策全体の達成度（★★★）	★★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	1,869 千円 1,855 千円

達成度の理由	教育委員会所管の施策について、点検評価を実施した際の達成度の割合。 教育委員会所管の施策11施策（教育行政の充実を除く）のうち、「目標を達成7施策」、「目標をほぼ達成4施策」であった。このことから教育委員会所管の施策全体の達成度は「目標を達成」とした。 総合的には、各施策の進捗状況や教育委員会会議、総合教育会議、教育委員による学校訪問、勉強会等を実施し、円滑な教育行政を行えたことから「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちのバランスのとれた教育を推進していく。
住民との協働や他課の事業との連携	教育基本法第17条第2項に規定される「地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けた、「栄町教育振興基本計画」（平成27年度～平成30年度）に基づき各種施策を推進してきた。

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①教育総務運営事業	・教育委員会会議（定例会12回、臨時会1回）を開催し、重要事項や基本方針の決定を行い円滑な教育行政が行えた。 ・教育委員と各議題に関わる関係課との勉強会を実施し、教育委員会会議での議題等内容について、情報共有等を図る機会を設けた。 ・総合教育会議は、虐待について充実した意義のある協議がされた。また、町長と教育委員会の情報共有を図った。 ・教育委員が学校を訪問することにより、学校の課題等を把握し教育委員会としての指導、支援の在り方を検討する機会とした。 ・教育委員会の施策に対して点検評価を行い目標達成度の検証を行った。 ・開かれた教育委員会をめざし、これまでの「会議結果」に加え、年度当初から「会議記録」をHPで公開し、透明性を高めた。 ・教育委員会規則・訓令の制定、改廃 3件 ・予算等議決議案を町長に申し出ること 7件 ・任命・委嘱 14件 ・その他 15件 ・委員研修（千教連・印教連開催等） 6回	【取組への課題】 町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しながら、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」を育むことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進していくことが必要である。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・社会の変化に対応するため、各施策の方向を確認しながら事業を実施し、情報および意識の共有化を徹底する。子どもたちに寄り添い、きめ細やかな教育行政が実施できるよう教育委員会会議等で常に協議・検討を行い教育環境の改善につなげる。 ・総合教育会議が2月末に招集されたが、町長部局と連携をとりつつ、有意義な期日設定を図る必要がある。	H28決算	1,878
			H29決算	1,846
			H30予算	1,869
			H30決算	1,855
合計			H28決算	1,878
			H29決算	1,846
			H30予算	1,869
			H30決算	1,855

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	学校教育環境の整備
現状と課題	学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。このことにより、災害時に、インターネットによる情報収集ができるよう、平成30年度に公衆無線LAN環境整備を実施した。平時は、学校教育におけるICT化の推進（プログラミング教育等）へ向け活用していく。今後も、学校施設に係る大規模な改修・工事については、多額の経費が必要なことから、国の補助制度を有効に活用し、より良い教育環境の整備へ向け、計画的に実施しなければならない。

施策の情報整理

目指す成果	児童生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安全で安心して学校生活が送れている。

成果指標及び実績

指標	平成26年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
教育環境の整備・充実	空調機　1校 トイレ洋式　1校	100% 100%	100% 100%	空調機　4校 トイレ洋式　4校	主な環境整備事業 ・空調機　4校 ・トイレ洋式　4校

施策全体の達成度（★★★）：★★★

目標を達成（100%）　★★★
目標をほぼ達成（80%以上）　★★
目標を達成していない　★
現時点では判定できない　—

施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	
	66,215　千円
	65,013　千円

達成度の理由

・栄町教育振興計画（平成27年度～平成30年度）における目標値として、小学校4校（安食小学校、布鎌小学校、安食台小学校、竜角寺台小学校）の空調機整備およびトイレの洋式化（安食小学校、布鎌小学校、竜角寺台小学校、栄中学校）を設定した。これらの工事については、平成29年度にすべて完了している。
・当初の目標であった環境整備事業の他に、新規事業として、学校施設のインターネット環境の整備を行った。学校は、災害時の避難所になっていることから、災害時に対応できるインターネット環境を整備した。平時には、学校教育のICT化の推進や校務支援システムの導入に向け活用していくことも踏まえ、平成31年3月に工事を実施、完了した。
・総合的には、平成28年度に空調機設置工事、平成29年度トイレ洋式化工事、平成30年度公衆無線LAN環境整備工事が完了したことから、「目標を達成」と判断した。

設定成果指標以外に現れた成果の説明：

外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの

学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。このことにより、グラウンドの改修、体育館の非構造部材の耐震化を含め、児童生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう、各学校の実情等を踏まえ学校施設整備計画を策定する。

住民との協働や他課の事業との連携：災害時の避難場所にもなっていることから一部の施設整備については、消防防災課と連携し、整備を推進していく。

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①学習環境整備事業	児童生徒及び教職員がより良い学校施設で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう教育環境の改善を図った。 平成26年度 ・栄中学校空調機設置工事完了 ・安食台小学校大規模改修工事完了（トイレ洋式化含む） ・安食台小学校グラウンド一部暗渠整備工事完了 平成28年度 ・安食小学校グラウンド整備工事完了 ・安食台小学校、竜角寺台小学校屋内運動場天井等落下防止対策工事完了 ・栄中学校屋内運動場、柔剣道場、多目的ホール天井等落下防止対策工事完了 ・小学校空調機設置工事完了 平成29年度 ・小・中学校トイレ洋式化設置工事完了 ・栄中学校グラウンド整備工事完了	【取組への課題】 ・学習環境の整備には多額の費用がかかることから、国の補助事業採択が重要になってくる。そのため、補助採択の状況により、事業進捗が左右されてしまうため、安定的な財源の確保が必要である。 ・安全安心のための整備として、安食台小学校プレハブ校舎撤去、安食小学校体育館テラス改修、各小学校プール撤去などが課題である。 【課題を踏まえ今後の対応】 国では、計画的な学習環境整備をするために、施設整備計画（長寿命化）を令和2年度までに作成することとしていることから、各学校の実情を踏まえた施設整備計画を策定し、安全安心のために予算要望を行っていく。	H28決算	344,602
			H29決算	66,126
			H30予算	0
			H30決算	0
②学校管理運営事業	より良い学校生活が送れるよう学校配当予算の適正な執行・管理を行い、学校の維持管理も適正に行った。 【主な工事等】 ・公衆無線LAN環境整備工事　26，244千円 【主な管理費等】 ・各小中学校消防用設備保守点検委託　968千円 ・各小中学校校舎警備委託　700千円 ・各小中学校光熱水費　16，696千円	【取組への課題】 各学校の予算については、限られた財源を有効に活用できるようにする。 【課題を踏まえ今後の対応】 より良い学校生活が送れるよう学校の予算を適正に執行・管理する。 また、引き続き老朽化した機器の修理等を実施する。	H28決算	36,609
			H29決算	38,400
			H30予算	66,215
			H30決算	65,013
合　計			H28決算	381,211
			H29決算	104,526
			H30予算	66,215
			H30決算	65,013

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		特色ある学校づくりの支援
現状と課題		町の人口減少とともに少子化による児童生徒数の減少が予測される中、子どもたちへの教育の重要性が増している。 学校運営や教育活動においても学校と地域が一体となって教育を推進していく必要がある。
施策の情報整理	目指す成果	小中学校ごとに望ましい学校教育のあり方を追求し、保護者や地域住民が参加した「特色ある学校づくり」を推進している。

成果指標及び実績	指標	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
	学校評価における保護者アンケート	93.8%	95%	95%	95%	評価項目「特色ある学校づくり」における保護者の満足度
			91%	89%		

施策全体の達成度（★★★）			
★★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない — 施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	30,302 千円	
		28,934 千円	

達成度の理由	・安食台小学校、栄中学校共に統合後の学校運営は円滑に行われている。また、スクールバスについても適正かつ安全に運行されており、児童生徒の通学時の安全は確保されている。 ・学校は学校評議員等を通じて、地域住民の意向を反映した開かれた学校づくりを実践している。 以上のことから総合的に「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	統合により学校規模が適正になったことから、それぞれの特色を生かした学校づくりが更に進んでいる。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・各地域におけるふれあい推進員を含めたPTA組織・地域の活動力の維持 ・地域コミュニティスクールの導入について
住民との協働や他課の事業との連携	・学校支援地域本部及びふれあい推進員等による放課後子ども教室等、学校と地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育む体制が確立している。 ・通学路の危険個所の確認を、建設課、印旛土木事務所（国道・県道管理者）、成田警察署、印西警察署、地域ボランティア、各学校教員と共同して行った。

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①通学安全対策事業	・統合により遠距離の通学となった児童生徒が安全に通学できるよう、スクールバスの運行継続。 小中学校共に登下校時2便の運行 安食台小学校 旧北辺田小学校区：マイクロバス 旧酒直小学校区 ：中型バス 栄中学校 旧竜角寺台小学校区：大型バス マイクロバス 旧酒直小学校区：中型バス ・運行委託（栄町シルバー人材センター） ・通学路点検、ブロック塀点検	【取組への課題】 ・スクールバスの安全運行を確保する。	H28決算	13,157
			H29決算	12,513
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・スクールバスの安全運行については、教育委員会、学校、栄町シルバー人材センターとの連絡調整を密にし、運行時間の調整、運行ルートの精査等を実施し、適正かつ安全な運行を行っていく。 特に突発的な事故等への対応や賠償等が発生した事案については、栄町シルバー人材センターとの間で合意を図る。 また、通学路の安全を確保するため、バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し、危険個所の確認を行い安全対策を講じていく。	H30予算	13,594
			H30決算	13,376
②特色ある学校づくり推進事業	・学校評議員設置業務 学校評議員を全校に配置した。 ・地域住民による学校支援推進業務 地域住民などによる教育活動の充実のための学校支援（ゲストティーチャーなど）の推進。 ・教育振興支援事業 学校教育振興会へ補助金を交付し、活動の支援。 ・学校安全指導業務 新1年生を迎えた1学期に各小学校で、交通安全教室の開催。防犯教室の開催。 ・学校運営の支援業務 小学校に学校用務員（日々雇用職員）の配置	【取組への課題】 ・学校安全指導業務を通じて交通安全指導を行っているが、小中学生の交通事故や犯罪に巻き込まれる事例が発生しているため、指導を工夫していく必要がある。	H28決算	8,133
			H29決算	9,476
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校評議員の意見に対する学校の対応について、教育委員会が状況を把握し、必要な措置を講ずることで、保護者や地域住民の意向を反映した開かれた学校運営に努めていく。 ・交通安全指導の際、事故発生場所や発生形態についてより具体的に児童生徒に伝える。 ・実際に起きた事例や「いかのおすし」などのキーワードを活用して、児童生徒が身近な危険として認識し、安全な生活について考えるための防犯教室を実施する。	H30予算	16,596
			H30決算	15,471
③「栄っこ宣言」推進事業	・「栄っこ宣言」にある、5つの行動規範を心の糧として夢に向かってがんばり、ふるさと「栄町」を愛する心を育てていくため、小中学生全員に「栄っこ宣言」が印刷されたクリアファイルを学校行事や集会活動の際に配付し啓発した。	【取組への課題】 ・町内にある幼稚園、保育園、栄特別支援学校、小・中学校の連携を視野に入れた取り組みを推進していく必要がある。	H28決算	81
			H29決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H30予算	0
			H30決算	0

④	栄っこ夢・元気プロジェクト推進事業	平成28年度より生涯学習課へ事務移管	【取組への課題】	H28 決算	
				H29 決算	
			【課題を踏まえ今後の対応】	H30 予算	
				H30 決算	
⑤	教職員等の適正配置事業	・教職員の服務に関する業務 ・昇給内申等に関する業務 ・教職員人事評価に関する業務 ・産休・育休に関する業務 ・履歴事項に関する業務 ・学級編制に関する業務 ・教職員の適正配置	【取組への課題】 ・教職員が妊娠や疾病等のため病気療養等に入った場合、県の講師等が配置されるまでの間、町で対応ができない場合、教職員が欠員状態となることから、児童生徒の授業等に大きな影響を与え、学校運営に支障が生じてしまう。	H28 決算	0
				H29 決算	20
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・県の講師等が配置されるまでの間、学校運営に影響が出ないよう、町負担による事故対策教員を配置する。	H30 予算	112
				H30 決算	87
⑥	小・中学校再編事業	事業終了	【取組への課題】	H28 決算	
				H29 決算	
				H30 予算	
				H30 決算	
合　計				H28 決算	21,371
				H29 決算	22,009
				H30 予算	30,302
				H30 決算	28,934

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	きめ細かな学校教育の推進
現状と課題	栄町では、「教育」を進める上で、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育成している。学校・家庭と地域及び子どもたちどうしが「みんなで支え、共に伸びる教育」を学校教育の方向性として位置づけ、子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていけるよう、基礎・基本の定着を図り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。 自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、学校支援員や介助員を活用したきめ細かな教育の展開や家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の指導力向上などが求められている。
施策の情報整理 目指す成果	一人ひとりの個性を活かし、基礎・基本を徹底させ、思考力・表現力を伸ばす教育により、確かな学力と豊かな心を持ち、社会の変化に対応する、たくましく生きる児童生徒が育成されている。

成果指標及び実績

指標	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
千葉県標準学力検査の県平均との比較	小90% 中40%	小100% 中100%	小100% 中100%	小100% 中100%	2月に実施される学力検査の結果が県の平均に到達している小中学校の教科の割合
		小65% 中47%	小85% 中53%		

施策全体の達成度（★★★）	★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	39,597 千円 37,413 千円

達成度の理由	・学力向上プラン推進事業の「わくわくドラム」については、参加する児童生徒数も年々増加しており、基礎学力と学習習慣の定着が向上している。 ・中学生の海外派遣事業は、事前学習を充実させることで生徒の学習意欲を高めることができ、事後の報告会では事業の成果を十分に発揮した発表ができた。 ・町雇用の学校支援教員、スクールカウンセラーについては、概ね各小学校の要望に応じた配置ができており、教育支援センター事業も効果を上げている。 ・就学相談についても丁寧に面談を行い、成果を上げることができた。 ・中学校の学力検査においては、基礎学力の定着が図られ、目標値に近づくことができた。 ・小中学校の県学力考査の全教科合計点は県平均を上回っており、各教科では小中学校ともに昨年度よりも県平均を上回る学年・教科が増えてきた。以上のことから、施策全体としては「目標をほぼ達成した」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	栄町学習道場（サタデーわくドラ、サマーわくドラ、ウインターわくドラ）の参加者が年々増加し、児童生徒の積極的な学力向上への意欲及び取り組みが見られる。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・教職員のモラールアップに対する取組 ・学習環境と教員の「授業力」の向上 ・特別支援教育に関するニーズの高まりときめ細かな対応 ・スクールカウンセラーの必要性の高まり
住民との協働や他課の事業との連携	・月1回、要保護児童に関する情報交換を、福祉・子ども課、生涯学習課と行った。

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①学力向上プラン推進事業	・授業改善推進業務 11月の学力パワーアップ総合月間に全校で実践活動を実施した。 ・栄町学力向上推進事業 学力スタンダードを活用した取組においては、児童生徒の漢字・計算の基本的技能の向上に寄与し、千葉県標準学力テストにおいても、前年度の数値を上回るものが多く見られた。 ・栄町学習道場（わくわくドラム）事業 ①7月～8月の夏季休業中、「基礎学力充実コース（14 回）」、12月の冬季休業中、「基礎学力充実コース（2回）」を実施し、長期休業中の児童生徒の家庭学習の習慣づけに寄与するとともに、基礎基本の充実、探究的学習への意欲づけを図ることができた。 ②年間を通して、「サタデーわくドラ」として栄町学習道場を隔週土曜日に開催し（年間全18回）、基礎基本の充実を図ることができた。	【取組への課題】 ・学年、学校により、学力テストの県平均を上回っていない教科がある。 小中連携による実効性のある授業改善研修を一層推進する。 ・学習指導要領等の改定に伴い、学力スタンダードも改定していく必要がある。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・学力スタンダードの改訂を行い、更に活用を推進する。 ・「学力パワーアップ総合月間」の充実を図る。 ・長期休業明けの基礎学力定着度テストを実施する。 ・年間を通して、「わくドラ」として栄町学習道場を維持・発展させるためのボランティアスタッフの確保と研修を行う。	H28決算	1,100
			H29決算	1,242
			H30予算	3,000
			H30決算	2,017
②国際化に対応した人間教育事業	・小・中学校外国語教育推進業務 小・中学校に外国語指導助手（ALT)を配置し、小学校外国語活動及び中学校英語指導の支援を行った。 ・栄町元気事業支援日本食研基金中学生海外派遣事業 国際理解教育の推進のため、町内の中学生（12名）をオーストラリア・メルボルン州へ派遣し、現地校での語学研修とホームステイ体験を行った。 ・英語検定助成事業 中学校卒業時に英検3級以上の英語力を身に付けていることを目標とし、年間1回受検料の全額助成を行った。	【取組への課題】 ・小学校外国語活動及び英語の早期実施を見据え、小学校教職員研修の充実と外国人指導員の配置が急務である。 ・国際理解教育を更に推進するため海外派遣事業に参加した中学生が、現地の方と継続して交流が持てるような工夫が必要となる。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催年の2020年に向け、国の設定する目標「中学3年生の半数が英検3級相当の英語力を身につける」の達成に向けて、具体的な対策を講じる必要がある。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・より多くの生徒がより高い級を受験し、かつ合格できるよう、学習支援を行っていく。 ・ALTによる小学校教員への研修を行う。 ・小学校に専科教員を配置し、外国語活動・外国語科の学習を充実させる。 ・英検助成制度の周知を図り、目標を持って学習していけるように支援する。	H28決算	9,762
			H29決算	10,371
			H30予算	15,569
			H30決算	15,196

③	個に応じた授業改善推進事業	・指導法改善推進業務 小学校4校に学校支援教員を配置した。 ・特別支援教育整備業務 小学校3校、中学校1校に介助員を配置した。 ・教育支援委員会運営業務 教育支援委員会を開催し、答申により適正な就学指導を行った。 ・国立教育政策研究所よりアクティブラーニングによる算数の研究指定を受けている、竜角寺台小学校への支援を行った。	【取組への課題】 ・年々特別な支援を必要とする児童生徒が増えていることから、就学相談・就学指導を適切に行うとともに、介助員の増員についても検討する。 ・インクルーシブ教育システム構築のための研修を推進し、どの児童生徒にとってもわかりやすい授業づくりをめざす。 ・町内教職員の指導力向上のため、小・小、小・中連携を拡大していく。	H28 決算	13,232
				H29 決算	12,933
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・保護者の意向を踏まえ、相談業務，就学指導について適切に対応していく。また、学校、教育委員会の役割を明確化するとともに、特別支援学校も含めた3者間の連携を密にし、児童生徒の状況に応じた就学支援を行っていく。 ・千葉県からの指定を受けている竜角寺台小学校への支援・指導を実施する。	H30 予算	14,048
				H30 決算	13,351
④	豊かな心・健やかな体づくり教育推進事業	・教育相談体制整備業務 教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラーを配置した。 ・教育支援センター運営事業 年間30日以上欠席の児童生徒は小学校12人、中学校18人おり、「ゆうがく館」に小学生2人、中学生4人が通所した。「ゆうがく館」には、学校適応専門官を配置し、不登校児童生徒への指導に当たる他、家庭訪問の実施、保護者面談等による連携を通して、高等学校からの学校生活への復帰と生活習慣の確立へとつなげた。また、指導員を配置し、不登校児童生徒に対する指導、相談及び集団適応支援を行った。 ・生徒指導支援業務 生徒指導担当者会議を5回開催し情報の共有を図り、生徒指導の助言を行った。 ・学校人権・道徳教育推進業務 指導主事が学校に出向き、道徳教育について指導・助言した。 ・体力向上・健康増進教育推進業務 毎年、新体力テストを実施し、食育の推進を行った。 ・学校図書館教育推進業務 学校図書館司書を各校に配置し整備を図った。	【取組への課題】 ・図書館司書として継続して勤務できる専門性の高い人材確保が課題である。 ・不登校対策として学校とゆうがく館との情報共有や連携が課題である。 ・特別支援教育に対する専門性の向上及び保護者との連携を活かした教育実践が課題である。	H28 決算	5,253
				H29 決算	5,267
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・児童生徒の学習意欲向上のため、学校図書館司書を継続して配置する。 ・スクールカウンセラーを小学校4校に1人配置を継続する。 ・アウトリーチ型の長欠児童生徒対策を検討する。 ・不登校対策にかかる専門員の配置について検討する。 ・ゆうがく館の土曜日開館による週5開館体制を検討する。	H30 予算	6,395
				H30 決算	6,334
⑤	学校教育を担う人材の育成支援事業	・教職員研修支援業務 各学校の校内研修会の開催を支援をした。教職員の資質向上支援のため、各種教職員の所属する専門性を高める研修会の負担金の補助を行い、教育課題に対応できるよう各種研修会を開催し、資質向上に努めた。	【取組への課題】 ・教職員の不祥事を根絶するための研修会の在り方について、当事者意識が持てるよう考慮する必要がある。	H28 決算	566
				H29 決算	520
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・OJTや研修を充実させ、教職員の資質向上を図る。 ・毎月の教頭会議においてモラールアップ研修を取り入れるとともに、指導法の研修を行うことで職員への指導力を高めていく。	H30 予算	585
				H30 決算	515
合　計				H28 決算	29,913
				H29 決算	30,333
				H30 予算	39,597
				H30 予算	37,413

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	学習環境の充実
現状と課題	町の人口減少とともに少子化による児童生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにするための学習環境の整備が必要である。

施策の情報整理

目指す成果	児童生徒は生活面においては必要な援助が受けられ、学習面においては充分な教材を活用し、授業を受けることができている。また、児童生徒及び教職員は健康面においても安心して学校生活を送れるようになっている。

成果指標及び実績

指標	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
児童生徒の学校に対する評価	91%	95%	95%	95%	児童生徒が学校生活に満足している割合
		85%	79%		

施策全体の達成度（★★★）	★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない ―	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	43,041 千円 41,132 千円

達成度の理由	・教科書給与業務については過不足なく給与することができ、補助金交付業務についても適正に交付することができた。 ・私立幼稚園就園奨励費補助金、私立幼稚園保育料等助成金についても適正に執行することができた。両補助金により多子世帯の保育料は無料となり、保護者負担の軽減について十分な効果をあげている。 ・学校保健事業については、定期健康診断、生活習慣病予防健診、精密検査等を通じ、児童生徒及び教職員の身体的な健康管理を行うとともに、教職員についてはメンタルヘルスによる不調を未然に防ぐため、ストレスチェックを実施した。 ・就学支援事業については、支援を望む保護者に対し、公平公正な調査と必要な支援を行った。 ・学齢簿の管理、区域外就学等について適正に事務を行った。 以上のことから、昨年度比6ポイントの減ではあるが、施策全体としては、「目標をほぼ達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・中学校の部活動においては生徒の活躍が期待される。 冷暖房完備等、環境の整備やきめ細かな生徒指導・安全指導による成果が出ていると思われる。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応。
住民との協働や他課の事業との連携	・健康介護課（食育・歯科保健指導） ・教育総務課（施設管理）

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①学習環境充実事業	・教科書給与業務 教科書の給与業務を適切に行った。 ・補助金交付業務 生徒ヘルメット補助金 栄中学校部活動補助金 ・学校教育振興・運営業務 各学校へ予算を配当し適切な執行管理を行った。 ・理科振興備品の整備 新学習指導要領に対応できる理科備品の新規購入を行った。	【取組への課題】 ・毎年度学校配当予算削減を余儀なくされるなか、学校配当予算の適切な執行について学校と連携を図っていく必要がある。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・消耗品等の適正な支出について、学校内で調整を図ることを推進するとともに、学校事務職員と教育委員会が連絡を密にし、学校事務共同実施を活用しながら適正な執行を行っていく。また、町に研究指定校制度を設置し必要な予算を確保していく。 ・町当局への予算要望を継続していく。	H28決算	12,445
			H29決算	7,380
			H30予算	12,294
			H30決算	11,952
②私立幼稚園就園奨励費補助事業	・私立幼稚園就園奨励費補助業務 私立幼稚園に通園している町内在住の園児の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担能力の程度（世帯構成と町民税所得割課税を確認）に応じ、保育料の所要経費の一部を補助した。	【取組への課題】 ・国の補助限度額が毎年度段階的に拡充されるため、町の規則改正も必要になり、同時に支出も増額になる。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・国の基準の改正を踏まえ、町の規則を改正し、財政部局と調整しながら適正に事業を実施していくが、令和元年10月より幼稚園及び保育園の無償化の実施に伴い、私立幼稚園就園奨励費補助事業は廃止する予定である。	H28決算	29,965
			H29決算	20,087
			H30予算	16,354
			H30決算	16,354
③私立幼稚園保育料等助成事業	・私立幼稚園保育料等補助業務 多子世帯の経済的負担の軽減として、私立幼稚園に通園している、町内在住の第3子以降の園児の保育料を無料にするため、保育料等から私立幼稚園就園奨励費補助金を差し引いた残りの金額を全額助成した。	【取組への課題】 ・特になし 【課題を踏まえ今後の対応】 ・引き続き助成事業を実施するが、令和元年10月より幼稚園及び保育園の無償化の実施に伴い、私立幼稚園保育料等助成事業は廃止する予定である。	H28決算	2,292
			H29決算	1,723
			H30予算	1,618
			H30決算	1,446

④	学校保健衛生事業	・定期健康診断及び生活習慣病予防健診業務 児童生徒に内科検診・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診・脊柱側彎症検診・心電図検査・結核検診・尿検査・運動器検診を実施した。 教職員についてはストレスチェックを実施した。 中学1年生、小学校5年生に生活習慣病予防検診を行った。 ・学校保健に関する業務 栄町学校保健会の事務局として学校医、学校歯科医の健診の日程調整を行った。 ・学校衛生管理業務 学校給食の配膳に関わる学校用務員の細菌検査を行った。 夏休み中に学校配膳室の害虫駆除を実施した。 ・災害共済給付に関する業務 学校の管理下の児童生徒の災害に対応する日本スポーツ振興センターの掛金の納付、給付金の請求事務を正確に処理した。	【取組への課題】 ・教職員の健診にストレスチェックの結果をどのようにフィードバックしていくか。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・ストレスチェックの結果が思わしくない人は改善に向かえるよう、また心に不安を抱える人は払拭できるよう、適切な事後指導を行う。	H28 決算	6,962
				H29 決算	6,540
				H30 予算	6,729
				H30 決算	6,459
⑤	就学支援事業	・要保護及び準要保護児童生徒就学援助業務 学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。 ・特別支援教育就学奨励業務 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。	【取組への課題】 ・就学援助に対する認識が保護者間、学校間で差がある場合があることから就学援助について周知を徹底させる必要がある。 また、新入学児童生徒に対し、入学前に新入学用品の購入費用を支給する入学前準備金支給制度を創設する市町が増えている。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・入学説明会の際の保護者への周知。 ・要保護及び準要保護児童生徒認定要領及び認定基準等の学校への周知を徹底し、保護者間、学校間の認識が等しくなるようにする。 ・民生委員にも総会等の機会を活用し、準要保護の制度について周知を図っていく。 ・入学前準備金の支給については、近隣市町の動向を確認し、導入に向けて検討する。	H28 決算	4,786
				H29 決算	4,761
				H30 予算	5,446
				H30 決算	4,370
⑥	就学事務の適正化推進事業	・就学時健康診断業務 学校教育法に基づき、就学指定校の変更、区域外就学に関する業務、入学通知に関する業務を適切に行った。 小学校への就学前児童の就学時健康診断に関する事務についても、入学通知業務同様に転出入の管理をして正確に行った。 就学に関わる事務を適切に行った。 ・学籍管理・学校の就学に関する業務 ・学齢簿に関する業務 就学予定者と転入児童生徒の学齢簿を新規に作成した。 また、転出入児童生徒の学齢簿記載事項の変更について、加除訂正を適切に行い、該当校長に通知した。 児童生徒の転入・転退学の管理事務を適切に行った。 ・各種調査研究・統計に関する業務	【取組への課題】 ・特になし 【課題を踏まえ今後の対応】 ・適正に事務を遂行する。	H28 決算	624
				H29 決算	586
				H30 予算	600
				H30 決算	551
⑦	子育て世帯家庭教育支援事業	平成28年度より生涯学習課へ事務移管	【取組への課題】 【課題を踏まえ今後の対応】	H28 決算	
				H29 決算	
				H30 予算	
				H30 決算	
合　計				H28 決算	57,074
				H29 決算	41,077
				H30 予算	43,041
				H30 決算	41,132

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	学校給食の充実
現状と課題	近年「食の安全性」に関して危惧される事案が多く見受けられる。このような状況下、町は児童生徒に安心・安全な給食を提供するため、より一層安全衛生基準に基づいた取り組みを講じていく必要がある。 また、給食を通じ「食」の重要性を児童生徒が理解し、その結果、給食残菜の軽減に繋がるよう食育に関する指導体制が求められている。

施策の情報整理

目指す成果	児童生徒の心身の健全な発達に資するため、適切な栄養摂取による健康の保持増進と望ましい食習慣を養うことから学校生活における食育の充実を図る。

成果指標及び実績

	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
児童生徒の給食を食べた量の割合（%）	85%	90% 90%	90% 91%	90%	年間給食供給量に対し、児童・生徒が給食を食べた量

施策全体の達成度（★★★）

★★★

目標を達成（100%）　★★★
目標をほぼ達成（80%以上）　★★
目標を達成していない　★
現時点では判定できない　—

施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	
146,671	千円
141,583	千円

達成度の理由

児童生徒の給食における摂取状況を主食、副菜、牛乳、に分類しそれぞれの残菜傾向を踏まえバランスよく食事がとれているかを判断する。その結果全体量のほぼ9割が摂取できている状況であることから、個々に必要な栄養素は適切に摂取されているものと判断する。また、昨年同様、中学生の喫食率が小学生より低い傾向にあるため、食育等を通じて更に「食に対する意識」の向上を高めていく必要がある。

設定成果指標以外に現れた成果の説明

総合的には、施設機能の適切な維持管理及び食材の安全性を確保しながら、日々安全で安心な給食を児童生徒に供給することができていることから「目標を達成」と判断した。

外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの

○施設維持管理事業：経年劣化による調理場内設備等の機能低下が懸念されるため、適正な調理機器の更新及び修繕を計画的に進めていく。
○給食事業：元気さかえ食育推進プランにより、学校、家庭、地域が一体となり子どもたちが自らの食について考え、選択する判断力を身につけ生涯を通じて健全な食生活をおくれるよう指導していくことが必要である。
また、食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応が求められている。

住民との協働や他課の事業との連携

・産業課及びJAとの連携による地元産生産物の利用の促進
・福祉・子ども課と連携し給食費の適正な徴収を図る（児童手当からの徴収）
・町のごみ減量化計画との関連性

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①給食運営事業	○安全衛生基準に基づいた食材の調達及び調理、配送を行い給食の安定供給を確保した。 提供日:193日　食数：約1，100食/日 ○栄養指導業務 ・栄養教諭による各小中学校での食に関する授業を実施。（小中学校各4～6回） ・各学校へ給食に関する情報チラシの配布及び完食したクラスに対し「完食賞」の実施。 ○ごみの減量化に伴う牛乳紙パックのリサイクルについて準備を行った。	【取組への課題】 ・栄養教諭による食育を通じた栄養指導及び各小中学校の担当教諭と連携しながら喫食率の向上及び給食残菜の減量化に取り組んでおり平成30年度においては概ね目標値に達した。しかしながら中学生の喫食率は依然低い傾向にある。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・昨年度比0．1ポイント上昇し全体では目標値に達しているが、中学生の喫食率を高めるため各生徒が「食に関する意識の向上」に繋がるような食育指導等の取り組みを実施する必要がある。 ・牛乳紙パックのリサイクル事業の推進を行う。	H28決算	133,425
			H29決算	134,710
			H30予算	134,109
			H30決算	130,348
②施設維持管理事業	○給食の安定した供給を図る為、調理場施設の機能維持管理を強化した。	【取組への課題】 ・施設内における配管設備及び調理機器に対する修繕個所が、年々増加傾向にある。施設機能の低下による給食の安定供給を損なうことのないよう適切な維持管理に努めていく必要がある。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設の改修計画及び厨房機器の更新計画を作成する。 ・町の総合計画に新センターの建て替えを位置づけ、建設に至るまでの工程等について策定する。	H28決算	5,332
			H29決算	10,776
			H30予算	9,853
			H30決算	9,527
③給食費徴収事務事業	○学校及び町の関係課と連携し、滞納者との納付相談等を行い適正な徴収に努めた。 ○令和元年度より給食費徴収事務の効率化を図るため、給食費徴収管理システムを導入した。 ○令和元年度からの給食費第3子無償化制度の実施へ向け、要綱等の整備を行った。	【取組への課題】 ・学校給食費の現年度分収納率は過年度収納率共に平成29年度と比較し下がっており、今後更なる収納対策の強化が必要である。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・栄町学校給食費徴収事務取扱要綱に基づき関係課及び学校と連携し適正な賦課徴収を行う。過年度分長期未納者に対して法的措置を視野に入れた手続き及び納付相談を実施する。 ・給食費徴収管理システムの100%導入を目指す。	H28決算	110
			H29決算	113
			H30予算	2,709
			H30決算	1,708
合　計			H28決算	138,867
			H29決算	145,599
			H30予算	146,671
			H30決算	141,583

学識経験者の意見（基本方針（１）について）

【施策名：教育行政の充実】
・「①教育総務運営事業」では「教育委員と各議題に関わる関係課との勉強会を実施」や，「会議録をＨＰで公開」等，より積極的な意識での取り組みが見られると思います。
「教育委員が学校を訪問」は，児童生徒の授業の様子や，教職員，学校の施設・設備を見ていただく機会となり，学校の現状や課題について把握ができ有意義だと思います。全校を対象とし今後も続けていただきたいと思います。
・教育振興計画や教育要覧を見せていただきました。町の人口が一番多い時期よりかなり減少している印象をもっていましたが，平成１２年頃と現在を比較すると約２０％減でした。子ども達が成長し，就職して町外に大勢転出しているのではと思っていましたが，栄町に残っている人もかなりいるということで，うれしいかぎりです。町の人口は２０％減ですが，予算は１０％減でもちこたえながら頑張っています。一方で教育予算は，４７％減で平成１２年の約半分になっています。予算も色々な方面に使用するので，配分もせめぎ合っていると思いますが，ボランティアの方を頼りにしながら頑張っている状況であり，教育予算にもう少し配慮をお願いしたいと思います。児童生徒数・学校数はおおよそ半減していますが，子ども達だけでなく町民全体を含めた生涯学習・教育だと考えていただけるとうれしいです。人生１００年時代，７０・８０歳になっても学び続ける時代ならば，そこに投資をするということも，町の大事な考え方ではないかと思います。

【施策名：学校教育環境の整備】
・公衆無線ＬＡＮ環境整備工事については，今後の子どもたちにとても大事なことで，教育環境整備が着々と進められていて良いと思います。
・「住民との協働や他課の事業との連携」の中で，避難所に指定された時の学校側の対応については，マニュアル化されていますか。いざというときに即座に行動ができないこともあると思うので，定期的に研修等行うと良いと思います。今回，９月１０月と台風が来て，大変な被害が出ているところもありましたので，防災時の避難所対応については，滞りなく進むようにお願いします。
・使用していない各小学校のプール撤去に要する費用について教えてほしい。プールは貸し出し等何か別の方法で利用できないでしょうか。
・学校では，子ども達の学力や体力の向上，生きる力の育成を目指して頑張っています。その前提として，学校を取り巻く環境や施設の安全が保障され，子ども達が心身ともに安心して生活できる状況であることが基盤になっています。施設・整備の安全・安心は教育行政や学校への信頼の大元ですが，昨今の台風や大雨・洪水等は，今までの常識を超え甚大な被害をもたらしています。栄町も以前ブロック塀等の調査を実施したと思いますが，ブロック塀に限らず校庭の遊具，屋上，ベランダ，高木，現在使用していないプレハブ校舎等，今後地震や暴風雨による被害が予想されるものについては，喫緊の問題として早急に改修，撤去をお願いしたいと思います。特に「①学習環境整備事業」の「安食台小学校プレハブ校舎撤去」等については，早急な対応をお願いします。
・「外部環境の変化や住民ニーズの変化など今後課題と対応が予測されるもの」の項目に，「学校施設整備計画を策定」が，２８年度，２９年度と継続して書かれていますが，現在どこまで進んでいるのか，現状を教えてください。

【施策名：特色ある学校づくりの支援】
・保護者からのアンケートを成果指標としているが，一昨年，昨年と「特色ある学校づくり」における保護者の満足度が下がってきている要因について教えてほしい。
・施策全体の達成度については，平成２９年度より少し下がってきていますが，取り組みの内容からも達成で良いと思います。卒業する児童生徒の保護者，入学する児童生徒の保護者により，「特色ある学校づくり」における保護者の満足度についての認識の違いもあると思うので，事業の取り組みを見ていただくと，理解は得られると思います。
・栄っこ宣言は，子ども達が常時復唱することによって，児童の意識が作られていくのでとても良いと思います。
・働き方改革ということで，先生方の時間外の問題もあります。そのことについての取り組みはどうなっていますか。
・施策全体の達成度が★２つということで，とても謙虚に評価されている気がします。保護者評価やアンケート中の少数意見も大事なのでそれらを踏まえながらも，施策全体の達成度については，２９年度と同じことがしっかり行えていれば，１・２ポイントのアンケートの差に左右されなくても良いのではないかと思います。学校における保護者アンケート，子ども達の自己評価，学校や先生方の自己評価，すべてをトータルした上で教育委員会としてこの施策をどのように達成したのかを確認し，達成度を決めていただければ良いと思います。
・「①通学安全対策事業」の中で，「通学路の安全を確保するため，バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し，危険箇所の確認を行い安全対策を講じていく」とありますが，危険個所の点検・確認後，平成３０年度はどのような対応・安全対策を行いましたか。
・栄町は，町自体で特色ある教育を数多く打ち出し，例えば，「栄っこ宣言」や「わくドラ」「キャリア教育」など創意工夫しています。「目指す成果」の項目に，「小中学校ごとに望ましい学校教育のあり方を追求し，保護者や地域住民が参加した『特色ある学校づくり』を推進している」とありますが，町の施策に加えさらに学校ごとに特色を出すというのは，具体的にはどのようなことなのか教えてください。
・「②特色ある学校づくり推進事業」の「学校安全指導業務」について，各学校では，「学校安全計画」を作成し，「交通安全教室」，「防犯教室」を教育委員会の指導の下に実施していると思います。また避難訓練では，地震，火災，不審者対応訓練を計画的に実施していると思いますが，ここ数年の異常気象を考えると，学校や地域の実態に応じて，豪雨・洪水・竜巻等を想定した訓練も必要になってくると思います。
　小学校高学年位からは，町のハザードマップを活用しながら，様々な被害を想定した対応を話し合うこともできるかと思います。さらに学校や家にいる時だけでなく，登下校や外出中に被災した場合の判断も，一度各自がシュミレーションする学習を取り入れていただけると，その後も役に立つかと思います。
【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】
・小学校４年生の英語の授業に参加する機会がありました。英語だけで授業を進めていました。小さい頃から外国語に親しむことで，抵抗がなく会話することができ，素晴らしいことだと思います。
・「施策全体の達成度」の評価については，謙虚に低く捉えている印象を受けました。
「①学力向上プラン推進事業」の「１１月の学力パワーアップ総合月間」や「学力スタンダード」の活用，「栄フューチャースクール（夏休み・冬休み・土曜わくわくドラム）」等，特色ある事業が展開され積み重ねられています。成果指標は，学力検査の県平均との比較

だけではないと考えます。
・「②国際化に対応した人間教育事業」について，「中学生のオーストラリア派遣事業」や「英語検定の助成事業」，ＡＬＴが昨年９月より３人になったこと等，各事業に力を入れ，２０２０年度からの新学習指導要領に対応した事業が推進されていることは，大きな評価に値すると思います。
・ＡＬＴを年間を通して雇用しているならば，児童生徒の夏休み・冬休みを利用した英語教室などを可能であれば取り入れてほしいです。英語村方式で子ども達に１日～３日程度英語だけで過ごす生活を体験させることで，多くの子ども達の国際化に向けた意欲の高まりに繋がっていくのではないかと思います。
・「③個に応じた授業改善推進事業」について，「学校支援教員」や「介助員」の配置により，子ども一人一人にきめ細かな学習指導が保障されやすくなります。全ての子ども達が自尊感情を傷つけることなく自己実現を目指していくために，大きな役割を担ってくださっています。「介助員の増員を検討する」とありますが，ぜひお願いしたいところです。また，栄町の特性を活かして，小・中・特別支援学校との連携を今後どのように進めていくのか，興味深く期待しています。特別な支援や配慮を必要とする児童生徒が，明るく生き生きと学んでいける学校や地域は，全ての子ども達にとっても幸せな学校や地域だと思います。
・「④豊かな心・健やかな体づくり教育推進事業」について，「ゆうがく館」や「学校適応専門官」の配置もきめ細かにされていると思います。昨今問題となっている人為的問題として，ＤＶや家族からのネグレクト，虐待等から，子どもの安全を確保しなければならない場合もあるかと思います。児相・警察・教育事務所・学校医その他関係機関と継続的に漏れなく連携し，迅速・的確な対応を取ることが，子ども達の命を守ることにつながります。子ども達に直接接している学校への，支援・助言を今後もよろしくお願いします。
・「学校における働き方改革」推進の流れをいち早く捉え，他の市町に先駆けて，「教員アシスタント職員活用事業」をスタートさせたことは，刮目に値すると思います。アシスタント職員の仕事内容を吟味検討し，教職員が本来なすべき子どもと関わる時間の確保や質を上げることができるよう，今後も指導・助言をお願いします。大変すばらしい取り組みだと思います。
・「広報さかえ７月号」に教育委員会の主要行事が，とてもわかりやすく掲載されていました。子どもが学校へ通っていない世帯の方にも，学校や教育の状況がよく伝わり，理解・協力に繋がると思います。来年以降も定期的に掲載をお願いします。
【施策名：学習環境の充実】
・施策全体では，各々の事務事業は，滞りなく実行されていると思います。この施策の指標が，「児童生徒の学校に対する評価」ということですが，教科書給与，ヘルメットの支給，理科備品の整備等の他に私立幼稚園就園奨励費補助事業などで，子ども達にはわかりにくい内容になっていると思います。そのことが影響し，施策の評価に繋がっているのではないかと思います。子ども達には，教科書の給与など普通のことと受け取れてしまうので，教育を受ける上で必要な事業であることを伝えられるよう，事業の取り組みについて，保護者や子ども達へのアピールも必要だと思います。
【施策名：学校給食の充実】
・給食の徴収管理システムを導入することによって，未納など大分改善できますか。
・年に１度給食を食べさせていただく機会があり，とても美味しいと思いました。中学生になると体型など気にする生徒もいるかもしれません。体は食べ物から作られるというこ

とを伝えるためにも，食育は大事なことだと思います。献立も進んで食べてくれるものを作っていただければ良いと思います。
・「現状と課題」に，「近年食の安全性に関して危惧される事案が多く見受けられる」とありますが，栄町としては具体的にどんな事案があったか，教えてください。
・学校給食センターは築３０年ということで，「経年劣化による調理場内設備等の機能低下が懸念されるため適正な更新及び修繕を計画的に進める」や「修繕箇所が年々増加傾向にある。施設機能の低下による給食の安全供給を損なうことのないよう適正な維持管理」とあり，また「新センターの建て替え」の記述もありますが，工程の策定状況を教えてください。
・調理機器は１０年を超えると修繕が増え，計画的に更新しないと一度に故障してしまうこともあります。令和５年の建て替えまで，どのように維持していくのかも大きな課題だと思います。新しい施設に移るまでの間，頑張っていただきたいと思います。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

教育総務課より
【施策名：教育行政の充実】
・教育委員会予算について
教育委員会は，教育の中立性を保つために市町村から独立した一定行政機関として位置付けられていますが，地方自治法上，予算編成権がないことから，今回ご意見いただきましたことを踏まえ，町部局と協議し予算に反映していけるよう進めてまいります。

【施策名：学校教育環境の整備】
・避難所に指定された場合の各校の対応マニュアルについて
各学校の防災対応については，災害等発生した場合に，教職員は，児童生徒の生命及び身体の安全確保を図るため，「危機管理マニュアル」に基づき対応しています。また，避難所運営については，「災害における避難所運営の手引き」に基づき消防防災課を中心に担当職員が運営していきます。大規模災害により長期に避難所を設置する場合の対応については今後，学校と消防防災課，関係各課において協議をしていく予定です。

・使用していない各小学校のプール撤去に要する費用や利用方法について
プールの撤去に要する費用については，今後，学校施設整備計画に合わせながら，計画的に進めていくため，具体的な金額の確定には至っておりません。また，プールは以前，消防の水利の施設として管理されていた時代もありましたが，現在はそうした機能も果たされていないのが現状です。プール跡地の活用についても，学校施設整備計画を踏まえ，検討していきたいと思います。
　なお，各小学校のプールについては，現在，児童生徒が近づかないよう安全対策を施しています。

・安食台小学校プレハブ校舎の撤去等について
プレハブ校舎の撤去については，令和元年度１０月の臨時議会において台風１５号の被災による復旧のための予算が配当され一部改修する予定ですが，撤去には至らないため，引き続き協議を行っていきます。また，安食小学校体育館のテラス改修については，令和元年度１１月中に改修工事が完了する予定です。限られた予算の中で，少しずつではありますが，子ども達が安全で安心して学校生活が送れるよう，教育環境の整備に努めてまいります。

・学校施設整備計画策定の進捗状況について
学校施設整備計画は，令和２年度までに作成を完了する予定です。策定後，計画書に基づき，大規模改修工事等を順次計画的に進めていきたいと考えております。令和２年度に布鎌小学校，令和３年度に竜角寺台小学校を予定していますが，国の補助制度を活用し，実施する事業であることから，引き続き国へ予算要望を行ってまいります。

学校教育課より
【施策名:特色ある学校づくりの支援】
・特色ある学校づくりにおける保護者の満足度が減少した要因について
アンケートの自由欄に記載されていた中で，例えば，学校に相談しにくい，先生方に声をかけにくいというような意見をいただいております。学校の敷居が高いと感じている保護者の方がおり，そうしたことが学校・家庭・地域との間に距離感を感じ評価をいただけなかったことに繋がったと思われます。

・働き方改革の取り組みについて
令和元年７月に栄町立学校における働き方改革プランを改訂いたしました。プランに則り，各学校において，働き方改革を推進しています。主な所では，出退勤時間の IC カードによる管理，教員アシスタント職員を他の市町に先駆け各学校に配置し，教員の事務負担軽減と児童生徒につく時間の確保等の目的が達成されているところです。このような取り組みにより，現在，栄町では，月の時間外勤務時間が８０時間を超えている教職員はいない状況です。

・各学校の特色ある学校づくりについて
それぞれの学区で歴史的な地域や特色をもった地域があります。例えば，今年，龍角寺が建立１３１０年を迎えました。竜角寺台小学校では，そうした地域の歴史を学ぶ機会を授業に盛り込むことや，布鎌小学校ではどら豆の栽培等，教育委員会の施策に加えて，学校ごとに特色ある学校教育を実施しています。

・通学路の安全確保について
平成３０年度には，年間２回の通学路点検を教育委員会，学校，建設課，印旛土木事務所の４つの関係機関が連携し，危険箇所について点検を行いました。ブロック塀も含めた危険箇所や交通量の多い箇所への対応を行いました。具体的には，グリーンベルトの敷設や注意喚起の看板の設置を行いました。また，バス運行の安全確保については，道路に覆いかぶさるような枝の伐採等を行いました。

・災害時の安全教育について
災害の多い国に住んでいることを踏まえ，ご意見をいただきました，ハザードマップを活用した訓練の導入については，とても大切な教育活動だと認識しています。今後，子どもたちの安全教育に取り入れていくよう学校に指導していきたいと思います。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】
・ＡＬＴを活用した事業について
授業時の外国語学習ばかりでなく，３日間英語だけで過ごすというような体験はないと思われます。グローバル人材の育成の観点から実践的な外国語活動を身に付けるためには，是非取り組んでみたい活動であると考えます。前向きに検討していきたいと思います。

【施策名：学習環境の充実】
・施策内容の保護者等への周知について
義務教育がどのような事業を通して成り立っているのか，機会をとらえて，保護者，地域，児童生徒に広報していきたいと思います。

【施策名：学校給食の充実】
・給食の徴収管理システムの導入について
未納者について，一覧表で表わすことができるようになりました。未納者への納付書の発行，その他督促状の発送など効率的に処理を行うことが可能になったことから，悪質な未納者への法的措置などを視野に入れながら対応を行っていきたいと考えております。

・栄町学校給食センターにおける食の安全性について
平成３０年度においては，身体に影響を与える事例は発生していないものの，ビニールの破片や髪の毛など細かな物についての事例はありました。「食の安全性」をモットーに職員・調理委託業者・食材業者が一体となり異物混入防止に対し常に意識を持って業務に努めてまいります。

・給食センター建設に係る現在の進捗状況について
老朽化に伴い，施設の移転を令和５年度の建設を目指し検討しております。今後，建設用地の検討委員会で検討し今年度中に用地を決定していく予定です。

基本方針　（２）
生涯学習とスポーツを通して，心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくるとともに，地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施　策　名】

・生涯学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２０
・生涯学習資料の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２１
・スポーツ振興事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２２

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２３～２４
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・Ｐ２５

施策評価シート

1．施策の情報整理

施策名	生涯学習環境の充実
現状と課題	・家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、次代のまちづくりを担う子どもたちが豊かな人間性を育むことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。 ・子どもたちは、少子化の影響から、異年齢の子どもと「群れて遊ぶ」機会が減少するとともに、核家族化などにより高齢者と日常的にふれあうことが少なくなる等、地域との絆や社会性を育むための機会が少なくなっている。 ・趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会的な課題に取り組む学習を支援するため、民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要がある。

施策の情報整理

目指す成果	生涯にわたり学習することができる環境が整備され、町民は、学習活動の成果を様々な方法で場を活かしながら、地域の課題解決や活性化につなげている。

成果指標及び実績

指標	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
生涯学習ボランティア登録者数	684人	746人	760人	760人	自主的に活動しているボランティアの人数（学習アドバイザー／図書室ボランティア／ふれあい推進委員／「こども110番」協力家庭/青少年相談員、PTA連絡協議会、社会教育委員12人、通学合宿ボランティア、安食小学校放課後ふれあい教室スタッフ）
		757人	768人		

施策全体の達成度（★★★）	★★★	目標を達成（100%）★★★ 目標をほぼ達成（80%以上）★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	3,092 千円 3,064 千円

達成度の理由	・自主的に活動しているボランティアの人数は学習アドバイザー20人、図書室ボランティア18人、ふれあい推進委員154人、青少年相談員30人、PTA連絡協議会8人、社会教育委員12人、子ども110番登録世帯数485人、通学合宿ボランティア30人、安食小学校放課後ふれあい教室スタッフ11人の計768人であった。 ・子ども達の安全と事業充実を図り実施したことから、通学合宿や青少年相談員事業等の参加児童の満足度は高い。このことから、「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、ふれあい推進委員・青少年相談員などの青少年関係団体の活動が活発に展開されている。 ・放課後ふれあい教室は布鎌小・安食台小の他に安食小に新たに開設した。児童登録率は布鎌小24%、安食台小35%、安食小14%。 参加者アンケートから参加児童の放課後ふれあい教室に対する満足度は高い。 ・いきいき塾さかえでは、ふれあいプラザさかえ利用サークルを講師として活用し、小学生対象の新規講座を実施し好評であったが、一方では内容が固定化し参加人数が低調で見直す必要が出てきている講座もある。 ・子ども110番の登録内容が古く、実態調査を実施したが全ての実態把握が困難なことから、新規の登録を中止することとし、平成30年度をもって指標である生涯学習ボランティア登録者数から除外する。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・地域の教育資源（人材・文化・自然等）の有効活用 ・家庭や地域と連携した安全安心の確保 ・子どもたちの他校や異学年との交流機会の提供と活動支援 ・多様な学習情報の提供
住民との協働や他課の事業との連携	当施策の事業は、全て関係団体との協働なくして進めることができない。各小学校区で組織している「ふれあい推進委員会」では、学校・PTAとの協力によるサマーキャンプなどのふれあい交流事業が実施されている。また、「放課後ふれあい教室」と「ドラム自然楽校」では、ふれあい推進委員会や青少年関係団体、さらには地域のボランティアの活用により、子どもたちへの学習、遊び、体験などの機会を充実させることができた。通学合宿ではボランティアの協力により、団体生活の中で炊事や日常生活の基本を自分自身で行いながら学校に通うことで、社会性などを伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育んだ。

2．事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）		事業費
①生涯学習活動支援事業	団塊の世代の活動支援など社会的な課題に対応した各種講座と、夏休み、冬休み中におけるキッズ教室を開催した。 ○いきいき塾さかえ講座（25回開催：延べ参加者294人） ・パソコン教室（9回、延べ参加者24名） ・木工教室（2回、延べ参加者24名） ・国際理解講座（参加者24名） ・浴衣着付け教室（参加者6名） ・栄町歴史講座（述べ参加者125名） ・キッズ教室[陶芸、切り絵、色鉛筆画、書初め、茶道、手話ダンス]（計10回、延べ参加者91名） 生涯学習環境を整備するため、社会教育委員業務を行った。 ○社会教育委員業務 ・社会教育委員会議の開催2回、印旛郡市社会教育委員振興大会の出席1回	【取組への課題】 ・職員やボランティアスタッフが不足しているため、事業の見直しを行う必要がある。 事業の見直しを行う事で、効率的で効果的なに事業を展開することができる。	H28決算	308
			H29決算	229
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・住民ニーズをアンケートなどにより的確に把握し、様々なニーズに対応した講座等を開催する。	H30予算	314
			H30決算	286
②地域教育力向上事業	青少年の健全育成のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ○地域ふれあい交流事業 （4回開催：参加者100人） ○青少年相談員活動の支援 （6回開催：延べ参加者367人） ○放課後ふれあい教室の運営 （3校：延べ参加者765人） ○成人式の開催（新成人参加者151人） ○家庭教育アドバイザーによる合同家庭教育学級の開催支援 （5回開催：延べ参加者280人） ○学校・家庭教育アドバイザーによる家庭教育相談 ○子ども110番登録件数485人	【取組への課題】 ・子どもたちの社会性、自主性、協調性を育むため、社会教育関係団体や地域の様々な教育力を活用しなければ各種事業を実施することができないが、職員や地域スタッフが不足している状態が続いており、継続して安定した事業を実施する事ができなくなっている。そのため、事業の見直しを行い効率的で効果的に事業を展開する必要がある。	H28決算	2,271
			H29決算	2,453
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・今後も子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、ふれあい推進委員会をはじめ、青少年相談員などの青少年関係団体等と連携を図りながら事業を推進していく。 ・平成28年度から家庭教育アドバイザーを導入し、合同家庭教育学級による他校の先生や保護者との交流を実施し今後も継続実施していく。 ・子ども110番は、実態調査を実施したが、日中不在のご家庭が増加している等、初期登録時の家庭状況から変化しており、本来の役割が果たせない場合も考えられる。このことから、現在登録している方は継続し、令和元年度以降の事業活動については、学校・PTAと協議していく。	H30予算	2,672
			H30決算	2,672
③体験活動推進事業	自然体験や生活体験等のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ○自然体験活動の推進「ドラム自然楽校」 （8回：延べ参加者250人） ○通学合宿の開催 （参加者28人）	【取組への課題】 ・社会教育関係団体や地域の支援者の方々の理解・協力・連携を得て体験活動を推進して行く必要がある。 ・職員や地域スタッフが不足している状態が続いており、継続して安定した事業を実施する事ができなくなっている。そのため、事業の見直しを行い効率的で効果的に事業を展開する必要がある。	H28決算	115
			H29決算	115
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・社会教育関係団体や地域の支援者の方々の理解・協力を得て、ドラム自然楽校を実施していく。 ・通学合宿については、夜間に体調不良の子どもが出るとともに、多くのスタッフが必要となり、その確保が難しいことから、令和元年度から休止とする。	H30予算	106
			H30決算	106
合計			H28決算	2,694
			H29決算	2,797
			H30予算	3,092
			H30決算	3,064

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	生涯学習資料の充実
現状と課題	・町民一人ひとりが自分にあった主体的な学習活動を継続して行うためには、様々な知識や情報が適切に入手できるような環境整備が求められており、本町の学習拠点であるふれあいプラザ内図書室は重要な役割を担っている。 ・地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な情報について、町民ニーズを捉えながら提供していく必要がある。 ・学習活動が様々な場所・方法によって実施されていることから、多様な関係者・関係機関が連携しネットワークを効果的に構築するための仕組みづくりを行う必要がある。

施策の情報整理

目指す成果	図書資料や情報メディア等を活用して、町民は新しい知識・技術の習得や地域課題の解決などのため、主体的に学習を行っている。

成果指標及び実績

指標	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
図書室利用者数	16,096人	16,576人	16,696人	16,696人	貸出者数（個人・団体）／閲覧者数／インターネット利用者数
		18,007人	18,169人		

施策全体の達成度（★★★）

★★★

目標を達成（100%）　★★★
目標をほぼ達成（80%以上）　★★
目標を達成していない　★
現時点では判定できない　—

施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	
	6,193　千円
	5,939　千円

達成度の理由	図書室利用者数は目標値に達している。また、インターネットを活用した検索・予約システムを導入し、利便性の向上につながったことから「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・学校図書館司書との連携を強化し、学校への団体貸出しを活発化させたことで、学校貸出数が増加した。 ・布鎌小学校区や竜角寺台小学校区など遠方の児童の来館問題や利用の利便性の向上のため、インターネットで図書の検索や予約ができる環境となった。 ・本の読み聞かせや、子ども映画会の実施によって多くの幼児、児童に対して読書教育の充実が図れた。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・レファレンスサービス（調べ物の手伝い）の充実と利用の促進 「地域や住民にとって役立つ図書室」となり、地域の発展に欠かせない施設としての存在意義の確立を目指すために、レファレンスサービスの充実と利用の促進を図ることはもとより、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な資料・情報を積極的に提供し、地域や町民の課題解決を支援していく。 ・児童サービスの充実 子どもの読書活動や学習活動を支援する観点から、図書室ボランティアとの連携を深めていくとともに、地域格差のある学校図書館への支援を積極的に行っていく。 ・成果指標である図書室利用者数については、令和元年度からの第5次総合計画策定時に目標設定を上げ、利用者数を増やすために季節や社会情勢に合わせたタイムリーな資料の紹介をしていく。
住民との協働や他課の事業との連携	子どもたちが絵本・おはなし・映画に親しみ、心豊かな感性を育みながら読書に慣れ親しむよう、図書室ボランティア（おはなしの会・人形劇パレット）と連携し、おはなし会、人形劇や子ども映画会などの読書普及活動を展開した。

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①図書室管理運営事業	生活関連本を中心に蔵書を充実させたほか、学校に調べ学習や朝読書用の本の貸出を行うとともに、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を開催し、子どもたちの読書活動の支援に努めた。 ○レファレンスを含む窓口サービス業務の充実（年間開室日数：285日） ○蔵書整備業務（購入635冊／寄贈511冊） ○学校貸し出し2，945冊	【取組への課題】 年代別の利用状況をみると、13歳から22歳の利用が圧倒的に少なく、これらの世代の読書活動を普及させる方策が必要となっている。 【課題を踏まえ今後の対応】 利用者のニーズを考慮した資料収集を行うとともに、学校司書からの要望を聞きながら、蔵書の充実を図っていく。	H28決算	4,010
			H29決算	3,582
			H30予算	6,193
			H30決算	5,939
②読書教育事業	図書ボランティアによる本の読み聞かせ会、おはなし会、人形劇公演、子ども映画会を開催し、子どもたちが読書の楽しさに気づくきっかけをつくり、読書体験を深めるようにした。（延べ参加者663人） また、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を3回開催し、学校における読書環境の整備を支援した。	【取組への課題】 読書教育関連事業が固定化してきており、新たな読書体験活動を深めていく必要がある。 【課題を踏まえ今後の対応】 読書週間を活用して、学校等と連携した新しい図書の普及啓発活動に取り組み、各学校への貸出を推進していく。 平成29年度より発行している読書手帳を継続して発行し、読書記録の管理と読書意欲の向上を図っていく。	H28決算	0
			H29決算	0
			H30予算	0
			H30決算	0
合計			H28決算	4,010
			H29決算	3,582
			H30予算	6,193
			H30決算	5,939

施策評価シート

1．施策の情報整理

施策の情報整理		
施策名		スポーツ振興の充実
現状と課題		スポーツイベントを中心に町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やしていこうと試みている。少子高齢化の影響もあり、既存のスポーツ団体の活動が衰退傾向にあるので、スポーツ団体の活動の活性化が今後の大きな課題である。
目指す成果		町民が身近なところで楽しみながらスポーツに慣れ親しんでいる。

成果指標及び実績

指標	平成25年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数	7,422人	7,600人	7,650人	7,650人	各種スポーツ大会・スポーツ教室の延べ参加者数
		8,070人	8,174人		

施策全体の達成度（★★★）		施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	
★★★	目標を達成（100%）★★★ 目標をほぼ達成（80%以上）★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	68,312 千円	
		67,104 千円	

達成度の理由	・スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数については、目標値の106．8%であったことでスポーツ人口を増加させるという過年度からの課題はクリアできた。 ・さかえリバーサイドマラソンの参加人数が前年度比約20%の増加（平成29年度実走者数2，734人、平成30年度実走者数3，278人）となったが、これは房総のむらを走るコースが好評だったことに加え、ゲストランナーに柏原竜二氏を引き続き招いたことにより参加者の興味を引くことができたためと考えられる。 ・昨年度に続き実施した「スポーツによる地域活性化事業」については、健康ポイント付与の効果もあり、参加者は多かった。 ・以上のことから総合的に「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・体育施設利用者に関しては、平成29年度は79，498人に対し平成30年度は94，775人で増加している。各施設とも昨年度に比べ利用件数・人数とも増加している。 【水緑：利用件数1，331件・19，705人／房総のむら：利用件数708件・26，818人／各体育館・校庭：利用件数2，632件・43，932人／町民A・B・Cグラウンド：利用件数：208件・4，320人】 ・体育協会各専門部の人数が減少傾向にあり、新たな人材確保に努めなければならず、また専門部員の高齢化により脱退せざるを得ないことも人数減少の要因と考えられるため、各専門部の活動を積極的にPRすることで新たな部員の確保につなげ競技力の向上を図ることが必要と考える。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	スポーツに関心がない方や普段から体を動かす機会が少ない方などへ、運動やスポーツへの関心度を高め運動を習慣化させ健康増進や介護予防への意識改革を図る。特に40代～60代の働く世代をターゲットとした事業を展開し、体調管理など健康増進につなげることが必要である。
住民との協働や他課の事業との連携	スポーツ推進委員・体育協会・住民活動団体・順天堂大学等の団体と連携し各種の教室やスポーツ大会を開催することは従前通り継続していく。また、スポーツによる地域活性化事業も引き続き継続し、ライフステージに応じた運動、スポーツ参加者へのきっかけづくりや場所の提供によりスポーツ実施者を増やすとともに健康長寿社会の形成を進めていく。 恒例となっている、さかえリバーサイドマラソンについては、各種スポーツ団体の他、教育委員会関連団体やボランティアを多く活用しランナーの安全確保に努めると同時に参加者及び来場者へのおもてなしの向上につなげていく。また、著名なゲストランナーを招き参加者の増加を図る。

2．事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①スポーツ・レクリエーション交流事業	●さかえスポーツフェスタ～誰もがオリンピックを目指して～の開催【1，323千円】 ・バレーボール教室（56名参加） ・陸上教室（39名参加） ・卓球教室（34名参加） ・親子体操教室（42名参加） ※延べ171名参加、講師・スタッフ延べ44名参加 ●スポーツ推進委員が行う事業への支援 ・報酬【684千円】、郡スポーツ推進委員連絡協議会負担金【35千円】 軽スポーツ教室保険料等【220千円】	【取組への課題】 補助金を活用したスポーツフェスタは引き続き実施することとするが、スポーツ推進委員活動については、事業のマンネリ化が見られるため参加者から飽きられないような工夫が必要である。 【課題を踏まえ今後の対応】 補助金を活用しトップアスリートを招いてのスポーツフェスタは引き続き開催する。このほか、他団体（青少年相談員や健康づくり推進員）と連携しスポーツ・運動を通したスポーツコミュニティーの醸成を図る。	H28決算	1,558
			H29決算	2,354
			H30予算	2,475
			H30決算	2,262
②スポーツ競技力向上事業	・小学生大相撲トーナメントの実施【9千円】 （参加者32名） ・千賀ノ浦部屋相撲合宿時にふれあい相撲体験を実施【6千円】 （参加者22名） ・町長杯ソフトバレーボール大会の実施（参加13チーム・65名） ・町長杯サッカー大会の実施（参加24チーム・300名） ・体育協会への活動支援【補助金1，731千円】 ・郡体育協会負担金【314千円】 ・郡市民体育大会出場選手協力依頼（選手出場211名） ・郡市民体育大会ユニフォーム購入【725千円】 ・郡市民体育大会ソフトボール競技・相撲競技開催【9千円】	【取組への課題】 体育協会各専門部の人員が高齢化により衰退・減少方向にあることから、新たな人材を発掘しなければならない。 【課題を踏まえ今後の対応】 体育協会各専門部の活動支援と活動のPRを積極的に行いまた、スポーツを通した地域連携を図りスポーツによる地域の活性化につなげる。	H28決算	2,043
			H29決算	2,464
			H30予算	2,812
			H30決算	2,794
③スポーツによる地域活性化推進事業	・糖尿病予防教室等の健康講演会の実施（計4回　延べ313名参加）【50千円】 ・軽スポーツ教室の実施(計5回　延べ168名参加) ・体力調査大会の実施【122千円】 （計2回　延べ104名参加） ・スリングヨガ教室の実施【651千円】 （計4回　延べ118名参加） ・いきいき広場の実施（計7回　延べ220名参加） ・健康ポイントカードの作成【53千円】 ・健康ポイント引替用商品購入【480千円】 ・スポーツ健康管理備品の購入等【416千円】	【取組への課題】 スポーツに関心がない40代～60代の働く世代の方々を、いかにして運動・スポーツに興味を持たせ、健康増進の意識付けを向上させるかが課題である。 【課題を踏まえた今後の対応】 スポーツ・運動に限らず、健康増進や介護予防のために教室等の参加者へのインセンティブを付与することで関心度を高め、運動の習慣化を図る。 40代～60代の働く世代の方々への普及を強め、参加を促す。	H28決算	3,981
			H29決算	1,415
			H30予算	2,137
			H30決算	1,772
④生涯スポーツ環境整備事業	・町民プール一般開放委託【3，442千円】 ・町民プール大規模改修工事設計業務委託【2，376千円】 ・町民プール大規模改修工事監理業務委託【789千円】 ・町民プール大規模改修工事【49，356千円】 ・町民プール用備品の購入【1，642千円】 ・栄特別支援学校電気料負担金【3千円】 ・体育施設管理【2，668千円】	【取組への課題】 幅広い世代の方々が快適に利用できるよう各体育施設の定期的な巡回を実施するよう努める。 【課題を踏まえ今後の対応】 体育施設の適正な管理のため、点検・整備を定期的に実施する。また、スポーツ振興くじ助成金を活用し、房総のむらテニスコートの修繕を行う。	H28決算	11,128
			H29決算	7,074
			H30予算	60,888
			H30決算	60,276
合計			H28決算	18,710
			H29決算	13,307
			H30予算	68,312
			H30決算	67,104

学識経験者の意見（基本方針（２）について）

【施策名：生涯学習環境の充実】

・事業を行うためには，ボランティアの協力なしに行政の方だけでは大変だと思います。どの団体でも，ボランティアの高齢化により後継者がみつからないと聞いています。人材を育成していくことも大事なことから人材発掘の事業を入れていただくと良いと思います。例えば，町の高齢化が進んでいるので，その方々の活躍の場所のきっかけを作り，ボランティアの育成をしていくことも必要ではないでしょうか。

・どの施策も年度ごとに吟味し，柔軟的に対応されていると思います。例えば，「放課後ふれあい教室」が「安食小に新たに開設」されたり，「子ども１１０番の家」や「通学合宿」の見直しが図られていることは評価できます。年度ごとに点検・評価したことを，改善に繋げていてくことが，「点検・評価」の本来の目的であり，そのことが達成されている証拠です。一度立ち上げた事業を無くすことには躊躇があると思いますが，改善に向けて，今後も努めていただきたいと思います。

【施策名：生涯学習資料の充実】

・小学校の図書室に行った時に，子ども達が読んだ冊数や感想文等が掲載されている掲示版を拝見しました。子ども達にも本を読んだ成果がわかりやすく，工夫がされていると思いました。小さい時から読む習慣があることは，映像と違い頭の中に浮かんでくるものなので読書は大事なことだと思います。

・本を借りたい時に，インターネットを活用した検索ができるようになったので，とても便利になったと思います。

・「①図書室管理運営事業」に，「１３歳から２２歳の利用が少ない」とありますが，中学生の場合，朝早くから遅くまで授業以外にも部活動や中には塾などもあり１日１時間の読書が難しい子どももいます。小学校６年生までにしっかりと読書する力がついていれば，朝の読書や寸暇をうまく利用しながらでもできると思います。今は，スマホ等で読むこともできるので，うまく工夫しているということも考えられます。

・幼い頃からの読書週間や読書量が，学力に大きく関わっていることは様々なところでよく言われることですが，その意味でも，学校図書館司書の配置はとても大事なことであり，ありがたいです。「朝の読書タイム」，「学校への団体貸出し」，「インターネット検索や予約」，「読み聞かせ会」，「読書手帳」の発行と工夫が重ねられています。

・「②読書教育事業」に関わる人数が，平成２９年度４０９人から平成３０年度は６６３人になり，１．６倍も増えています。学校を始め，司書，ボランティアの皆さんの努力の賜物だと感謝します。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

・スポーツ推進員については，新しい教室の開催を行うと同時にスポーツに精通する人材の発掘を行い，その方々の協力を得ながら，技術指導や組織作りに繋げ，事業を発展させてほしいです。また，それぞれの世代のライフステージに合うスポーツの普及を進めてほしいと思います。

・健康ポイントは，ポイントをもらうために参加する方も多いと聞きました。そうしたことをきっかけにスポーツに親しんでくれる方が増えると良いと思います。

・町も高齢化が進んでいるので，健康のためにその年代をターゲットにしたスポーツのの普及も必要ではないでしょうか。

・以前，町民体育祭がありましたが，現在は老人クラブのスポーツ大会だけではないかと思います。地域の活性化や交流が図れるので，そういったイベントがあると良いと思います。
・栄町からオリンピックに出場できる選手を出すことができればすばらしいと思います。それについては，指導者が大事であると思います。
・リバーサイドマラソンは，参加者が年々増え，事務局皆さんの取り組みが実を結び膨らんできて，とても頼もしいと思います。コースも以前とは変わってきているところもあって良いと思います。
・旧酒直小学校と旧北辺田小学校の体育館の利用状況はどうですか。利用を促進するために広報・啓発をしていただくことも良いと思います。
・数ある施策の中でも，「スポーツ振興の充実」は，衆目を集める事業だと思います。各種スポーツ大会，特色ある「リバーサイドマラソン」など，栄町のイメージアップや勢いに繋がる事業が目白押しです。マラソンもここ３年間毎年１．２倍増になり，県はもとより関東のマラソン界でも周知される大会になってきているのではないでしょうか。その他の競技の施設利用も毎年高い割合で増加しており，全体的に高い評価ができます。
・６５歳までは働く時代へと移り変わってきており，ボランティアやスタッフの確保が課題になってくると思います。内容の見直しや精選をしながらも，できるだけ各年代にあったスポーツの種類を揃え，存続・発展させていただければありがたいです。高齢化が進む中，例えば９０歳でもスポーツができるということもキャッチフレーズになるかと思います。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より
【施策名：生涯学習環境の充実】
・ボランティア発掘のための人材育成について
多様な事業を展開して，その効果を検証・見直しを図り，ビルドアップしていくためには，行政だけでの力で実行することに限界を感じています。現在ボランティアとして活躍されている方々も高齢化が進み，後継者不足が問題となっていることから，今後は各種事業の実施状況等を広くＰＲ・周知すると共にボランティアの募集も併せて行うことで，新たな人材の発掘を図るよう検討してまいります。

【施策名：生涯学習資料の充実】
・ご意見いただきましたことを踏まえ，町民一人ひとりに合った情報が容易に入手でき，主体的な学習活動を行えるよう，図書館司書や各関係機関と連携を密にし，図書資料等の充実と普及を進めていきたいと考えます。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】
・地域の活性化や交流が図れるスポーツイベントの開催について
以前は町民体育祭を開催しておりましたが，自治会対抗としての競技が難しくなったことで，オープン参加の体育大会に変更した経緯があります。しかし，オープン参加の形態に変更後も，参加者が集まらないなどの理由により，町民全体でのスポーツイベントは中止しています。町体育協会では，それぞれの専門部による各種スポーツ大会・教室を実施しており，多くの町民の参加により交流を図っています。今後も体育協会やスポーツ団体の支援を継続していくことで，多くの町民の交流が図れるよう，スポーツ振興と支援の充実を図ります。

・旧酒直・北辺田小学校体育館の利用状況と今後の啓発等について
定期的に利用しているサークルはあります。団体数は，酒直が５団体，北辺田が４団体です。体育館は，避難所に指定されていることもあり，消防防災課において平成３０年度に酒直体育館の床を整備しました。また，北辺田体育館は令和元年度にトイレを整備する予定です。利用者の方が安心して利用できるよう，施設の管理に努め，その結果多くの方に利用していただける施設に繋げていきたいと考えます。

・高齢化に対応したスポーツの普及について
生涯学習課で実施している軽スポーツ教室では，高齢者でも体験できるショートテニスやソフトバレーボールのほか，健康介護課と協働事業で行っている健康ポイント事業の「いきいき広場」では，ノルディックウォーキングやヨガ教室等を開催し，高齢者の健康づくりを支援しています。今後も，気軽にスポーツに親しむことができ，健康づくりに繋がるような教室を実施する予定です。

基本方針　（３）
地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り，個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。

【施　策　名】

・文化芸術発信拠点の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２７
・歴史資料の公開・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２８
・文化財保護の拡充・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２９

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３０～Ｐ３１
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・Ｐ３２

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	文化芸術発信拠点の充実
現状と課題	・ふれあいプラザさかえの経年経過による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 ・各サークル等、文化芸術団体がより活発に活動できるよう、活動の啓発や成果発表の支援が必要である。 ・社会環境の変化により、余暇時間を利用した個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに来れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術に触れられる機会が望まれている。

施策の情報整理

目指す成果	・文化芸術に触れたり、学習意欲を刺激しあう機会の提供により、町民個々がスキルアップし、心豊かにいきいきと生活している。

成果指標及び実績

指標	平成25年度	平成29度	平成30度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
ふれあいプラザさかえの利用人数	199,632人	215,900人	220,200人	220,200人	ふれあいプラザさかえの年間利用人数
		201,334人	190,942人		

施策全体の達成度（★★★）	★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	134,030 千円 133,012 千円

達成度の理由	利用人数の減少については、平成30年度の文化ホール改修工事により3ヶ月使用できなかったことが要因としてあげられるが、ふれあいプラザさかえ長寿命化計画に基づき計画的に改修を進めているところであり、利用者の安全・安心の確保に努めながら、文化芸術に触れる機会を提供していることから、総合的に「目標をほぼ達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・施設の老朽化に伴い、要修繕箇所が多く、応急的に使用できるようにしている部分が多い。 ・平成29年度に策定した個別施設計画（長寿命化の実施計画）基づき計画的に施設改修を実施した。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・限られた予算内で施設管理ができるように努めていきたいが、経年経過による消耗のために突発的な消耗品が発生している。 ・各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持が課題となっている。
住民との協働や他課の事業との連携	

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①ふれあいプラザさかえ施設管理・運営事業	○ふれあいプラザさかえを年間291日開館し、管理・運営を実施した。 ・施設総合管理や設備保守点検、特殊建築物定期報告調査等を委託 ・光熱水費（電気・ガス・上下水道）の支払い ・窓口業務の日々雇用職員との連携、調整 ・平成28年4月1日～平成31年3月31日の3年間、文化ホール業務委託（舞台・音響・照明のスポット委託）	【取組への課題】 ・限られた予算内で施設管理ができるように努めているが、経年経過のために突発的な修繕が発生している。	H28決算	54,738
			H29決算	54,080
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設利用者にとって、安全で安心な施設の維持・管理及び施設運営を努めていく。 ・光熱水費については、節電や節水を利用者へ呼びかけるようにし、支出を軽減していく。	H30予算	55,238
			H30決算	54,405
②ふれあいプラザ施設改修事業	○次のとおり施設の修繕を実施した。 ・文化ホール天井改修工事 ・ふれあいセンター空調設備工事 ・文化ホール客席誘導灯バッテリー、避難口誘導灯修繕 ・ふれあいプラザ排水管改修工事	【取組への課題】 ・経年経過による設備の故障が多く発生しているが、応急的な対応に留まり、全ての修繕ができていない。	H28決算	1,968
			H29決算	3,018
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。 ・平成29年度に策定した個別施設計画（長寿命化の実施計画）基づき計画的に施設改修を実施していく。	H30予算	78,783
			H30決算	78,598
③文化芸術振興事業	○貸館事業による文化事業を展開した。 ○自主文化事業を実施した。 ・ジャズコンサート（入場者186名） ・ホールピアノ一般開放（8日入場者60組） ・映画会（入場者60名）	【取組への課題】 ・町民がどのような文化芸術に興味があるのか、把握ができていない。	H28決算	ふれプラ基金
			H29決算	ふれプラ基金
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・高校、関係団体等の協力を得てのコンサートや映画会を開催していく。 ・文化芸術振興事業として、ふれあいプラザさかえ事業基金を活用し、企画・実施していく。	H30予算	ふれプラ基金
			H30決算	ふれプラ基金
④文化芸術団体支援事業	○サークル団体等の日頃の活動成果を発表する機会として「ふれあい文化祭」を実施した。 ○1階展示ロビーにおいて、展示ケースやミニギャラリーによるサークルの案内、作品展示を随時展開している。	【取組への課題】 ・文化祭への参加団体は、小学校の招待を含め55団体だった。一般団体が前年より2団体減少した。入場者数は2，690名 ・一部の団体では、会員の高齢化や会員の確保に苦慮している。利用サークル連絡会は年度末で1団体減少し58団体。	H28決算	9
			H29決算	9
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・栄町ふれあい文化祭やサークル紹介スペース、広報紙等を活用し、活動成果の発表や団体の活動内容を町民に紹介していく。 ・小学校の招待は、国の求める「働き方改革」に則っていく。	H30予算	9
			H30決算	9
合計			H28決算	56,715
			H29決算	57,098
			H30予算	134,030
			H30決算	133,012

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策の情報整理		
施策名		歴史資料の公開・活用
現状と課題		町史編さんについては刊行事業が凍結されており、緊急的課題に係る調査を若干進めている状況である。このため当面は、これまでの調査成果を簡便平易な方法で公表して普及を図る。また、「公文書等の管理に関する法律」施行に係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。
目指す成果		本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、公開することにより、町民の愛郷心を高揚させ、永く後世に伝えられている。
成果指標及び実績	指標	歴史公文書の整理保存作業
	平成25年度	8%
	平成29年度	25% 25%（139/554箱）
	平成30年度	30% 30%（167/554箱）
	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	30%
	目標数値の説明	現在保有する歴史公文書の整理保存作業の進捗割合
施策全体の達成度（★★★）	★★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない — 施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額） 135 千円 84 千円
達成度の理由		歴史公文書の整理保存について、資料全体から見た整理保存作業の進捗状況はストッカー箱554箱中、167箱分の作業が完了し目標値の30%に達していることから数値上は目標は達成しており、下記のような課題はあるものの総合的には「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明		・栄町史刊行に係る調査データを利活用して、町史編さん委員会の協力により広報誌に記事を毎月掲載することができ、栄町の歴史・文化遺産について紹介できた。 ・町史資料の公開活用について、町史刊行計画の凍結から10数年経過していることと、度重なる整理保管・作業場所の移転などに伴い未整備となっていることから、早期に公開活用ができる状態に進めていく必要がある。 ・資料整理作業に関わるスタッフ等の人材確保と計画的な整理保存作業が必要である。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		刊行計画の凍結状況の長期化に伴い、栄町史編さん委員会及び専門委員の高齢化等に係る退任が進んでいることから、今までの成果の還元である『栄町史』の刊行について進捗させる必要がある。また、「公文書等の管理に関する法律」等の改正などに係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。
住民との協働や他課の事業との連携		栄町古文書学習会の会員に『栄町史史料編』（近世）への掲載予定史料に係る解読筆耕作業を継続的にお願いしている。このことは、会員の生涯学習活動を通して町民に情報が発信され、郷土の歴史の普及となっている。また、栄町文化財サポーター登録者に地域史料（襖などの下張文書）の整理保存作業を継続的に実施していただいている。さらに、ふれあい文化祭などで、ワークショップを開催いただき史料保存の重要性について積極的に発信いただいている。

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①町史編さん事業	これまでの調査成果を町史編さん委員会の協力を得て、テーマを「ふすま下張り文書の整理保存作業」として毎月広報誌を通して地域史料の概要と史料保存の重要性について公表した。また、「栄町歴史講座」（参加者延べ98名）を開催して古文書解読について実施し、特に近代部会専門委員などによる公開講演会（2回）で好評を得た。	【取組への課題】 広報誌への掲載について、スペースが限られていることから原稿量の調整が難しい。 【課題を踏まえ今後の対応】 時宜を得たテーマや歴史講座の参加者、文化財サポーター登録者などから興味のあるテーマを聞き取り、記事に反映させる。	H28決算	102
			H29決算	106
			H30予算	116
			H30決算	65
②記録史料の保存・公開事業	地域史料（古文書等）の整理保存作業を文化財サポーターとの協働（年間45回、延べ222名）で実施した。 歴史公文書の整理保存作業は議会関係（布鎌村役場分）について進めることができた。	【取組への課題】 地域史料の整理保存は、協働作業で着実に進捗しているが、歴史公文書の整理保存作業は、作業員、時間の確保に苦慮している。 【課題を踏まえ今後の対応】 歴史公文書の整理保存作業日を固定化して作業員・作業時間を確保し、公文書管理法に基づく例規等の整備を進め、歴史公文書のライフサイクルを確立させる。また、整理保管・作業場所の移転などに伴い歴史公文書の配架が未整備となっていることから集約を進める。その他、文化財審議会と連携して評価の確定した「検地帳」他3点について町指定文化財の手続きを進める。	H28決算	21
			H29決算	21
			H30予算	19
			H30決算	19
合計			H28決算	123
			H29決算	127
			H30予算	135
			H30決算	84

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	文化財保護の拡充
現状と課題	・岩屋古墳周辺の指定地に係る公有化は膠着化して動きがない。しかしながら、国指定史跡候補地内における未指定地の追加指定を進捗させて早期に保全、保護について確立させる必要がある。また、岩屋古墳の基礎的調査に係る報告書の刊行によるデータを活用し、史跡整備計画に反映させる必要がある。 ・町内外へ国史跡などの文化財の活用、普及や環境整備を図るためには栄町文化財サポーターとの協働が不可欠なことから登録者を増加させる必要がある。
施策の情報整理 目指す成果	文化財が持っている重要性への理解が深まり、文化財の保護への意識が高まっている。 また、国史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の公有地化が図られ、その保全・活用のための整備計画策定に必要な岩屋古墳の修復や主要な古墳等の調査が実施され、その成果が活用されている。

成果指標及び実績	指標	平成26年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度（教育振興基本計画目標値）	目標数値の説明
	発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター数	26人	41人	46人	46人	登録人数
			38人（2名加入、2名脱退）	44人		

施策全体の達成度（★★★）	★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	3,102 千円 2,747 千円

達成度の理由	栄町歴史講座(5回)を開催して文化財サポーター研修を兼ねて実施し関心を深め、新規登録者6名の加入を得たが、数値目標は達成できなかった。しかしながら、のら里くら里健康ウォーキングの会と協働(3回)できたことや、自主研修グループの例会活動への支援を図り、活動の充実が見られたことから総合的には「目標をほぼ達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・町指定文化財「布鎌惣社水神社本殿」の修理工事について、文化財審議会等の指導をいただき完了することができた。 ・国庫補助事業による考古資料の整理保存事業（あじき台遺跡、下原遺跡）について確実に進捗させることができた。 ・サポーターとの協働による、史跡周辺の環境整備について定期的（月例）作業及び、主要イベントに係る文化財ガイドの確立が図れた。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・財政的な問題で、史跡の「整備活用計画」が当面作成できないため、戦略的な活用ができていない。 ・岩屋古墳の学術調査データの公表から日本最大の方墳と確認されたことや浅間山古墳が房総最後の前方後円墳として注目され見学者が増加していることから、頻繁にガイドなどの対応が必要となっている。 ・岩屋古墳エリア及び、浅間山古墳エリアに係る史跡用地の環境整備面積の増大による除草作業が課題となっている。
住民との協働や他課の事業との連携	文化財サポーター制度を拡充させて、教育委員会等が行う文化財に関するイベント等や観光客等の来町者、見学者の案内・説明、さらに史跡等を保全するための環境整備・清掃作業などの協働を進捗させる。

2. 事務事業の取り組み

（単位:千円）

事務事業名	平成30年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① 文化財の調査・保護事業	開発に伴う記録保存は、その都度の事業者等と連絡、協議、調整を行い確実に処理した。町指定文化財「布鎌惣社水神社本殿」の修理工事に伴う調査について、文化財審議会等の指導をいただき進捗させることができた。国庫補助事業による考古資料の整理保存事業（下原遺跡など）について調査報告書を刊行することができた。また、発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター登録者の活動支援のため栄町歴史講座（5回）などを開催した。	【取組への課題】 国庫補助事業による考古資料の整理保存事業（下原遺跡など）について、専門的知識を有する職員を確保して計画的に進捗させる。また、3カ年計画となる町指定文化財「布鎌惣社水神社本殿」の修理工事に係る調査報告書の作成業務について、引き続き工事関係者と連携して計画的に進捗させる。 【課題を踏まえ今後の対応】 国庫補助事業の内容について精査し、県文化財課の指導をいただき推進させる。また、町指定文化財調査報告書の作成業務について、内容の高度化に対応して調査員と連携をとり計画的に進捗させる。	H28決算	2,668
			H29決算	4,621
			H30予算	2,977
			H30決算	2,662
② 龍角寺古墳群保全・活用事業	NPO法人栄町観光協会、千葉県立房総のむらなどに協力し龍角寺や岩屋古墳などを訪ねるツアーや古墳めぐり、さらに小学校社会科授業の現地見学などに対応し、国指定文化財の普及を図った。（文化財ガイド聴衆者1,468名）また、岩屋古墳及び浅間山古墳について栄町文化財サポーターとの協働により定期的な環境整備作業を行い保全に努めた。（22回）	【取組への課題】 文化財ガイドの対応について、文化財サポーターへ研修の充実とガイドマニュアルの必要性が生じている。また、浅間山古墳本体の環境整備作業を実施することが課題となっている。 【課題を踏まえ今後の対応】 房総のむら、栄町観光協会（コスプレの館）との連携を進めることで文化財ガイドの充実を図る。浅間山古墳の重要性を普及させることで、地元自治会や栄町文化財サポーターなどの理解を得て環境整備作業の進捗を図る。さらに、8月1日に展示を始めた房総のむら風土記の丘資料館内の「浅間山古墳石室」復原模型を活用していくことで普及を図る。	H28決算	116
			H29決算	395
			H30予算	125
			H30決算	85
合計			H28決算	2,784
			H29決算	5,016
			H30予算	3,102
			H30決算	2,747

学識経験者の意見（基本方針（３）について）

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】
・昨年，富里高校のジャズコンサートを拝見しました。とても良かったと思います。以前は有名な歌手が来ていました。予算の関係上難しい部分もあると思うのですが，せっかくの文化ホールなので，大いに活用してほしいと思います。「③文化芸術振興事業」で，「町民がどのような文化芸術に興味があるのか，把握ができていない」とありますが，昨年も同様の内容でした。対策は考えていますか。どういったことに興味があるのか把握をしていないと，目的もはっきりしないので，早い時期に把握をしたほうが良いのではないでしょうか。
・達成度★２つの理由が，文化ホールが３ヶ月使用できなかったことが影響しているということですが，目標の数値を１２ヶ月で割って１ヶ月にした場合，利用者は少ないかもしれませんが，利用できない期間を考えると★３つでも良いのではないかと思います。
・「②ふれあいプラザ施設改修事業」について，大きな箱物なので，経年劣化による整備や修繕は今後の大きな課題の１つだと言えます。町民としては，できるだけ長く，快適に利用し続けたい思いが強いと思います。
・「③文化芸術振興事業」で，評価の「町民がどのような文化芸術に興味があるのか，把握ができていない」が，２８年度から続いていますが，どのような発信を行なえば，把握できるのでしょうか。スポーツ振興事業のように著名人を招くことや，例えば団塊の世代に向けてアピールするものとか，見極めが難しいですが，工夫をお願いします。学校ごとに実施しているところもありますが，児童生徒には，落語や狂言の教室などで文化に触れ，味わわせたい思いがあります。
・スタインウェイとベーゼンドルファー２台のピアノについては，どれくらい利用・稼働していますか。子ども達が体験で弾く以外に，演奏をする利用頻度が例えば数年に１回であれば，空調等を考えると，貸出しなど使い方について見直しをしても良いかと思います。

【施策名：歴史資料の公開・活用】
・文化財サポーターは，非常に意欲的でボランティア精神にも富んでいて，敬服しています。しかしながら，歴史公文書の整理保存作業を進めるスタッフが少なく，５５４箱分全ての確認が終わるまで相当な時間を要するのではないかと思います。保管場所もいくつかに分かれているので文化財担当の方も把握されていない部分もあるのではないのでしょうか。栄町の歴史は大事なので，人材を増やし事業を進めて歴史を見える形で送り出していただきたいと思います。
・「現状と課題」の「町史編さんについては刊行事業が凍結されており」に注目しました。歴史公文書の整理保存作業の進歩状況が，５５４箱中１６７箱分で，平成２８年度から毎年２８箱分進んでいますが，残り３８７箱分に１３・１４年かかることになります。「町史刊行計画の凍結から１０数年経過している」とありますが，保管作業場所が色々移転していることなど，資料の保存状況が心配です。また地域史料（古文書）の整理保存作業について，文化財サポーターにお願いして進めている中，あと１３・１４年後にはどのようになっているのか，やや危機的な状況だと思います。１回でもいいので，専門・研究機関の方を招いて，今後の作業方法や方向性だけでも確認してはどうかと思います。例えば，デジタル化もできるので，写真に撮って一先ずパソコン保存する等を視野に入れて進めていかないと，事業的には必要だが，先送りになりやすい事務事業なので，お願いしたいと

ころです。

【施策名：文化財保護の拡充】
・文化財の担当の方も少ない中で，ボランティアに頼る部分が大きいと思います。町には，現在の文化財サポーター―以外にも，そういった機会があれば携わってみたいという方もいると思いますので，人材発掘のためのセミナーや研究会など親しみやすいかたちで募っていくことはどうでしょうか。例えば，麻生の貝塚なども標柱があるだけなので，発掘するためのボランティアを募集すれば，興味のある方もいると思います。このようなことについて，考えていただけるとありがたいと思います。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より
【施策名：文化芸術発信拠点の充実】
・町民の文化芸術に対する意見の把握，対策等について
町民がどのような文化・芸術に興味やニーズがあるのかを把握するためにはアンケート調査が有効であると考えられます。その結果を反映し，実践するためには，多額の予算を伴うことがありますので，国や県の補助事業を効果的に活用し，財源を確保した上で，文化事業の実施を考えてまいります。

・ピアノ（スタンウェイ，ベーゼンドルファー）の活用等について
多くの方を対象に年２回（春・秋），ピアノの一般開放として文化ホールにて双方の弾き比べの体験ができるように，ピアノの活用を図っています。今後は，より多くの方にピアノの魅力や楽しさを実感していただけるよう，一般開放や体験時間を増やすことなど検討してまいります。

【施策名：歴史資料の公開・活用】
・町史編さん事務に係る今後の対応について
町史編さん委員や古文書学習会の方々を中心に，限られた人材及び予算を計画的に配置・執行し，効果的に現在ある資料の調査及び整理事務を継続してまいります。

【施策名：文化財保護の拡充】
・文化財サポーターの人材発掘について
児童・生徒等の校外学習や地域イベント及び文化財をめぐるツアーなどにおいて，サポーター各自が説明を通して，学習・研鑽を積んでいます。その一方で，毎月１回独自に研修会等を実施し，資質の向上に努めています。また，１月～３月には文化財サポーター養成講座を予定しており，新たな人材の発掘に努め，次年度以降に継続していくこととしています。

・麻生貝塚について
麻生貝塚の標柱につきましては，埋蔵文化財の包蔵地であることを周知させると共に文化財の重要性を広めるため建てられたものです。同様な標柱は，小台遺跡（安食台小），大台遺跡（栄中）などがあります。

５　〖本町教育行政が取組む方向について〗

教育長より

今回は，教育基本法の 60 年ぶりの改正に伴い平成 27 年度から平成 30 年度にわたった計画となる「第１次栄町教育振興基本計画」の最終年度でした。その上で，自身の就任年でもありましたので，目標値に至っていたかを自己評価し，外部委員による点検評価を受ける準備を緊張しながら進めてきました。

一方，平成 31 年３月，「栄町第５次総合計画」がスタートし，「人が元気，町が元気，みんなでつくる水と緑のふるさとさかえ」をめざし，基本目標６として「歴史と文化を誇り，心豊かに学び生きがいが育める元気なまちをつくる」と定めています。そして，今年度からの実施計画を立案してきております。

町教育委員会としまして，「第１次栄町教育振興基本計画」を踏まえ，平成 31 年度から始まる４年後の令和４年度を目標値とする「第２次栄町教育振興基本計画」を教育委員会議にて決定しました。

さて，今回の点検・評価においては，国の推進する「教員の働き方改革」に早急に着手した町単費による「教員アシスタント職員活用事業」が，点検年度から始まり，評価を賜る筆頭にあげられます。平成 30 年６月調査では「月８０時間以上の超過勤務者が「校長１名，教頭１名，教諭１名」，11 月調査では，「教諭１名」と漸減してきたところです。

また，全国的に取りざたされた「虐待」や「いじめ」事案への取組等も，看過できないものとなり，命を守る取組を急務とされております。

本町においても，「いじめ」は皆無ではなく，どこにでも起こり得るものと認識し，早期対応，早期解消へと向かうよう，令和元年５月１日付けにて，「栄町いじめ防止基本方針」を教育委員会議にて合議し，改正しました。新しい時代に即応した「いじめ防止」につながるよう，保護者・地域と学校が方針を共有するとともに，調査方法，結果の保持について改善したところです。さらに，県外他市の状況を踏まえ，これらの情報を事務局内にとどめず，教育委員との情報共有を図りつつ，教育委員会会議に諮ることも行ってまいりました。

そして，「総合教育会議」においては，「虐待事案」にかかる町長部局担当課と教育委員による情報共有も果たせたところです。さらに，小学校卒業式における児童の華美な服装への対処もしてまいりました。

さらに，町長の指示により，第３子の給食費無償化も今年度よりスタートしまして，教室の空調化，洋式便座化に続き，児童ファースト路線を堅持しているところでもあります。

最後になりますが，学識経験豊富なお二方の評価委員のきめ細かなご提言をいただきましたことに感謝申し上げ，教育委員会議での合議を経て，法令に則り町議会へ報告してまいります。

なお，昨年度までお世話になった小島洋子氏から新たに内田圭子氏へと，新たな視点で評価をいただきましたとともに，女性登用もこれまで同様，維持できましたことも併せて申し添えます。